

「事業名：飯舘村環境放射線研修会」 2020年度補助事業の実績・成果

大阪大学 連携市町村：相馬郡飯舘村

相馬郡飯舘村 平成29年8月8日締結 現地拠点：飯舘村草野字大師堂113番地1

事業のポイント

教育

1. 環境放射線に関する偏りの無い幅広い科学的な知識を与える。
2. 環境放射線を体感し、その実態を定量的に正しく理解する。
3. 飯舘村民を始めとする様々な人たちと交流し多様な意見を聞き、議論をする機会を与える。
4. 学生一人一人が自らの頭で考え判断し、行動していく力を与える。

研究

1. 飯舘村山林の土壌及び木の葉に含まれる放射性物質の定量と経年変化の観測と放射性物質の循環の研究。
2. 飯舘村の農地や山林の継続的な調査の実施。

今年度の活動実績

今年度は新型コロナウイルスの感染対策のため、座学はオンライン講義に変更した。内容は例年と同様に放射線の物理化学的側面と生物影響、身の回りの放射線、社会における放射線などである。その後8月29日から9月3日にかけて大阪大学の学生を中心に尚絨学院大学、岐阜大学、和歌山大学、東京大学の学生計37名で飯舘村において研修会を行った。研究課題の一部である木の葉や土壌の試料採取を行い放射線測定手法などについて学び、放射線に対する感覚を養った。今年は残念ながら村民の方々との交流は見送ることになったが、村長の講話を聞き、それらの経験を基に学生自身が復興に対して何ができるのかについて毎日議論を行った（右写真）。試料は研修会参加の学生が大学に戻って測定し、その結果は学会で発表予定である。



今年度の成果

研修会に参加した学生のほとんどは放射線に関連した知識がほとんど無いところから出発したが、一連の講義と研修により放射線を身近なものとして考えられるようになった。今後は正しい知識を持った指導者に育っていき、社会全体の科学リテラシー涵養に貢献することを期待している。研究項目については数年間の測定データが集積してきた。下図はその一例で、2017年より定点観測を行っている田畑における放射性セシウムの深度分布を年ごとに示したものである。これらの測定結果と、研修の教育的効果について、3月に実施される「環境放射能研究会」で発表する予定である。

